

JAPANESE FOR FOREIGNERS

副詞

ふくし

監修 名柄 迪
■茅野直子 ■秋元美晴 ■真田一司 著

ADVERBS

*Innovative
Workbooks
In Japanese*

外国人
のための
日本語
例文・問題
シリーズ

1

荒竹出版

外国人のための日本語 例文・問題シリーズ 1

副

詞

茅野直子

秋元美晴

真田一司

江苏工业学院图书馆
藏书章

荒竹出版

著者紹介

茅野直子（ちの・なおこ）

1976年青山学院大学日本文学科博士課程修了。ハワイ大学大学院東西センターで言語教授法を学ぶ。現在、上智大学比較文化学部、国際教育振興会日本語研修所講師。著書に、『文体』（共著、荒竹出版）、『All About Particles』（講談社インターナショナル）がある。

秋元美晴（あきもと・みはる）

1986年青山学院大学大学院日本文学科博士課程修了。現在、恵泉女学園大学日本文化学科専任講師、玉川大学、聖心女子大学、神奈川大学非常勤講師。著書に、『外国人のための助詞』（共著、武蔵野書院）、『どんどん読めるいろいろな話』（共著、武蔵野書院）がある。

真田一司（さなだ・かずもり）

1962年法政大学文学部日本文学科卒業，69年早稲田大学第二文学部西洋哲学専修卒業。現在、青山学院大学、国際教育振興会日本語研修所講師。

外国人のための日本語例文・問題シリーズ
副 詞

昭和六十二年十一月一日
平成七年一月二十日
初 版
六 刷

著 者
茅野直子
秋元美晴
真田一司

発行者
荒竹 勉
中央精版印刷
印刷／製本

発行所
荒竹出版株式会社

東京都千代田区神田神保町二一三四
郵便番号一〇一
電話 〇三―三三六二―〇二〇二
振替（東京）二一―一六七―一八七

（乱丁・落丁本はお取替えいたします）

ISBN4-87043-201-3 C3081

監修者の言葉

このシリーズは、日本国内はもとより、欧米、アジア、オーストラリアなどで、長年、日本語教育にたずさわってきた教師三十七名が、言語理論をどのようにに教育の現場に活かすかという観点から、アイデアを持ち寄ってきたものです。私達は、日本語を教えている現職の先生方に使っていただけでなく、同時に、中・上級レベルの学生の復習用にも使えるものを作るように努力しました。

このシリーズの主な目的は、「例文・問題シリーズ」という副題からも明らかのように、学生には、今まで習得した日本語の総復習と自己診断のためのお手本を、教師の方々には、教室で即戦力となる例文と問題を提供することにあります。既存の言語理論および日本語文法に関する諸学者の識見を無視せず、むしろ、それを現場へ応用するという姿勢を忘れなかったという点で、ある意味で、これは教則本の実用文法シリーズと言えるかと思います。

従来、文部省で認められてきた十品詞論は、古典文法論ではともかく、現代日本語の分析には不十分であることは、日本語教師なら、だれでも知っています。そこで、このシリーズでは、品詞を、自立語では、動詞、イ形容詞、ナ形容詞、名詞、副詞、接続詞、数詞、間投詞、コ・ソ・ア・ド指示詞の九品詞、付属語では、接頭辞、接尾辞、(ダ・デス、マス指示詞を含む)助動詞、形式名詞、助詞、助数詞の六品詞の、全部で十五に分類しました。さらに細かい各品詞の意味論的・統語論的な分類については、各巻の執筆者の判断にまかせました。

また、活用形の形についても、未然・連用・終止・連体・仮定・命令の六形でなく、動詞、形容詞ともに、十一形の体系を採用しました。そのため、動詞は活用形によって、u動詞、ru動詞、行く動詞、来る動詞、する動詞、の五種類に分けられることになります。活用形への考慮が必要な巻では、巻頭に活用の形式を詳述してあります。

シリーズ全体にわたって、例文に使う漢字は常用漢字の範囲内にとどめるよう努めました。項目によつては、適宜、外国語で説明を加えた場合もありますが、説明はできるだけ日本語できるように心がけました。

教室で使っていたく際の便宜を考えて、解答は別冊にしました。また、この種の文法シリーズでは、各巻とも内容に重複は避けられない問題ですから、読者の便宜を考慮し、別巻として総索引を加えました。

私達の職歴は、青山学院、獨協、学習院、恵泉女学園、上智、慶應、ICU、名古屋、南山、早稲田、国立国語研究所、国際学友会日本語学校、日米会話学院、アイオワ大、朝日カルチャーセンター、アリゾナ大、イリノイ大、マサチューセッツ大、メリーランド大、ミシガン大、ミシガン州立大、ミドルベリー大、ペンシルベニア大、スタンフォード大、ワシントン大、ويسconsin大、アメリカ・カナダ十一大学連合日本研究センター、オーストラリア国立大、と多様ですが、日本語教師としての連帯感と、日本語を勉強する諸外国の学生の役に立ちたいという使命感から、このプロジェクトを通じて協力してきました。

国内だけでなく、海外在住の著者の方々とも連絡をとる必要から、名柄が「まとめ役」をいたしました。が、たわむれに、私達全員の「外国語としての日本語」歴を合計したところ、580年以上にも

及びました。この600年近くの経験が、このシリーズを使っていたく皆様に、いたずらな「馬齢の積み重ね」に感じられないだけの業績になっていればというのが、私達一同の願いです。

このシリーズをお使いいただいて、*Two heads are better than one.* (三人寄れば文殊の知恵)とお感じになるか、それとも、*Too many cooks spoil the broth.* (船頭多くして船山に登る)とお感じになったか、率直な御意見をお聞かせいただければと願っています。

この出版を通じて、荒竹三郎先生並びに、荒竹出版編集部の松原正明氏に大変お世話になりましたことを、特筆して感謝したいと思います。

一九八七年秋

ミシガン大学名誉教授
上智大学比較文化学部教授

名柄 迪

はし が き

この本は、中級から上級程度の日本語学習者を対象にした、副詞の学習書です。学習者がこれまで学んできた副詞の復習や整理、また副詞を実際に自分のものとして、使えるようになることを目的にしているため、各々の項目には解説文、例文だけでなく、練習問題もつけてあります。

本書では紙面の関係上、文化庁の『外国人のための基本語用例辞典(第二版)』を基に、頻度の高いもののみを扱いました。特に擬音語・擬態語はこのシリーズの別巻で取り上げられる予定ですので、かなり省きました。また、本書では名詞(例 あした)、形容詞(例 はやい↓はやく)、形容動詞(例 立派↓立派に)の副詞的用法のものは省きました。ただし、動詞「する」を伴うもので、頻度数の多いもの(例 びくびくする)は入れてあります。

副詞だけをまとめた学習書としては、これが初めての試みだと思いますので、多くの不備があるかと思われまゝ。諸先輩の今後の御指導をいただくとともに、足りない点を補って御使用くださいますように、お願い申し上げます。

一九八七年十月

著 者

本書の使い方

本書の項目別の分類の仕方は、外国人の学習者が理解しやすいように、状況、状態別等にしたがって配列したものです。したがって学習者は必要に応じ、どの項目からでも学習することが可能です。

各項目の構成は(一)ことばの提示、(二)解説、(三)例文、(四)練習問題からなっています。特に、「解説」の部分は学習者が理解できるよう、平易な文章が使われていますので、独習用としても使えます。また、学習者が、これまで習得した副詞の復習をする場合などには、練習問題が役立つと思います。練習問題の解答は別冊になっていますが、完成文の問題には独習者のために解答例をつけておきました。学習者は、副詞を学ぶことによって、日本語の意味がより深く理解でき、より日本語らしい文章が書けるようになることでしょう。現場の先生方にも、作文指導の一環として、あるいは読解指導の例文の一部として、お使いいただけたらと思います。

目次

本書の使い方 xvii

第一章 時および頻度を表す副詞

1

〔一〕 習慣、頻度^{ひんど}などを表す言い方 (1) 1

習慣、頻度^{ひんど}などを表す言い方 (2) 2

〔二〕 ある時間の長さを表す言い方 5

〔三〕 短時間の後、何かが起こったり、何かをしたりする言い方 (1) 6

短時間の後、何かが起こったり、何かをしたりする言い方 (2) 7

〔四〕 過去を表す言い方 10

〔五〕 ある物事の前後に何かをする言い方 11

〔六〕 その他の時を表す言い方 13

第二章 程度および数量を表す副詞

17

〔一〕 強調を表す言い方 (1) 17

強調を表す言い方 (2) 19

〔二〕 強調を表す言い方 (3) 19

程度をやわらげる言い方 21

第三章 人間の状態を表す副詞

- 〔三〕〔四〕〔五〕〔六〕〔七〕〔八〕〔九〕
- 程度の進行を表す言い方 23
- 選択^{せんたく}などを表す言い方 24
- 「こ・そ・あ・ど」を使った程度を表す言い方 26
- 数量が多い場合(1) 30
- 数量が多い場合(2) 31
- 数量が少ない場合 34
- 数量などを限定^{げんてい}する言い方 35
- 数量などをはつきり限定^{げんてい}しない言い方 39
- A 数量などが正確には言えないが、そのくらいであるようす 39
- B ほとんど、あるいは完全に近い状態にあることを表す 40
- 〔一〕 人の性質や態度を表す言い方 43
- A 物事にこだわらない性質 43
- B 性質や物事に対する態度 44
- 〔二〕 体の特徴^{とくちょう}を表す言い方 47
- 〔三〕 健康状態を表す言い方 48
- A 健康状態が悪い時 48
- B 健康状態がいい時 49
- 〔四〕 おなかが空いた(空腹^{くうふく})の時や、のどがかわいた時の言い方 50

「笑い」を表す言い方	50
うれしいようすや、安心した状態を表す言い方	51
不安や心配などを表す言い方	56
不愉快な気持ちなどを表す言い方	60
悲しいようすや、さびしさを表す言い方	65
その他の心の動きを表す言い方(1)	66
その他の心の動きを表す言い方(2)	72

第四章 人間の動作についての副詞

.....

75

「眠り」を表す言い方	75
食べたり、飲んだり、吸 ^す ったりする状態を表す言い方	76
静かに何かをするようすを表す言い方	78
動作の速い、遅いを表す言い方	79
A 速いようす	79
B 遅いようす	80
一緒に、同時に動作が行われる場合	81
別々に動作が行われる場合	82
話し方についての言い方	85
A よくしゃべるようす	85
B 大声で話したり、騒い ^{さわ} だりするようす	86

C 小さい声で話すようす 86

D 文句を言うようす 87

動作についての気持ちを表す言い方 88

無意識にある動作をしてしまう言い方 92

歩くことについての言い方 92

熱心に何かをするようす 94

その他の人間の動作についての言い方 96

第五章 物事の状態を表す副詞

.....

99

〔一〕物事が続いて起こったり、何かを続けてするようす 99
物事や動作の進み方を表す言い方 100

A 進み方や変化が速かったり、順調な場合 100

B 進み方が遅かったり、順調でない場合 102

C 瞬間的な動作や状態を表す言い方 107

物事が混乱したり、壊れているようす 110

物事がちょうど良かったり、余裕がある場合 112

物の持っている性質を表す言い方 114

〔三〕〔四〕〔五〕A 粘り気のあるようす 114

B 滑りやすいようす 115

C 乾いたようすや、水気のあるようす 115

第六章

決まった言い方を伴う副詞

.....

〔一〕 否定を伴う言い方 (1) 133

〔六〕 物の動きを表す言い方 (1) 116

物の動きを表す言い方 (2) 118

〔七〕 物の出す音を表す言い方 121

A 機械や乗り物や、道具などが出す音 121

B 物と物とがぶつかり合ったり、落ちたりして出す音 121

C 乾いた物が触れ合って出す音 122

D 物を破いたり、ひつかいたり、かんだりする音 123

〔八〕 その他の物事の状態を表す言い方 124

〔九〕 天候を表す言い方 127

A 太陽の照るようす 127

B 雨の降るようす 128

C 雪の降るようす 128

D 湿度 129

E 気温 130

F 風の吹くようす 130

G 雷の鳴る音 130

H 星の輝くようす 131

第七章 その他の副詞

161

- 〔七〕〔六〕〔五〕〔四〕〔三〕〔二〕
- 否定を伴う言い方 (2) 135
- 否定を伴う言い方 (3) 137
- 否定を伴う言い方 (4) 139
- 否定を伴う言い方 (5) 142
- 「か」を伴って、疑問、反対の結論を導き出す言い方 146
- 仮定形を伴う言い方 150
- 「らしい」「よう」などの言葉を伴う言い方 151
- 希望や願いを伴う言い方 154
- 完了を伴う言い方 155
- その他の言い方 159

- 〔一〕
- 普通と違う状態を強調する言い方 161
- A 気持ちなどを強調する場合 161
- B 他との違いを強調する場合 162
- C 程度が一番上である状態 163
- 判断や予想が確かだと思われる場合 164
- 推量を表す言い方 165
- 結果が予測できる場合 167
- 結果が予測できたり、結果が出た場合 168

第八章 総合問題

〔六〕	順序を表す言い方	172
〔七〕	ある状態が続いている場合	173
〔八〕	距離や方向を表す言い方	175
〔九〕	「言い換えれば」の意味を表す言い方	176
〔十〕	慣用的な使い方	178
〔十一〕	その他	180

183

解答別冊……………
卷末

第一章 時および頻度を表す副詞

〔一〕 習慣、頻度などを表す言い方 (1)

1 いつも どんな時でも常に、変わらないようす。

(1) 私は、いつも八時に家を出る。

(2) 人間は、いつも健康でいられるとは限らない。

2 しじゅう〔始終〕 いつも、絶えず、何かをする。あるいは、いつも同じ状態がくり返されるようす。

(1) 父は、始終文句ばかり言っている。

(2) あの夫婦は、始終もめている。

3 しょっちゅう いつも何かをしている意味。いい意味では、あまり使われない。話し言葉に多く使われる。

(1) 山田さんと安田さんは、しょっちゅうけんかばかりしている。

(2) 父はしょっちゅうお酒ばかり飲んでいて、仕事を全然しない。

4 たえず「絶えず」動作、作用、状態が継続けいぞくしていることをいう。

(1) 今日は、朝から絶えず雨が降っている。

(2) 家の前の大通りでは、夜でも絶えず車が通っているから、よく眠れない。

5 つねに「常に」いつも、の意味。「いつも」は話し言葉で多く使われるのに対し、「常に」は書き言葉として多く使われる。

(1) 健康には、常に注意をしている。

(2) アメリカ人は、常に自分の意見を主張しゅちやうすると言われている。

6 なんじゅう「年中」いつもいつも、何かをする、何かがある状態。

(1) 南の国には、おいしい果物が年中あるそうだ。

(2) 貧乏暇ひんぼうひまなしで、年中働はたらいていても生活に追おわれている。

習慣、頻度ひんどなどを表す言い方(2)

1 しきりに 同じ事がくり返し起こったり、続いて起こっているようす。また、熱心にくり返すようす。

(1) このごろ、岡さんがしきりに手紙をくれる。

(2) 彼は女子学生にしきりに話しかけるが、誰も相手にしてくれない。

2 しばしば 何度も、その事が多く行われるようす。

(1) 川端康成かわばたやすなりも、しばしばこの本屋に立たち寄よったそうだ。